

第3部・送火のつどい

10～15分(カウシル・ファイヤー)

(1) 起立

○司会者の合図で起立し、第3部の開始をつける。

(2) 静かな歌

○「星影さやかに」を全員で歌う。  
○歌の間に火の使いはトーチに点火し、営火長の前に立つ。

星影さやかに

- 1 星影さやかに 静かにふけぬ  
つどいのよるこび 歌うはたのし
- 2 名残はつきねど まどいは果てぬ  
今日のひと日のさち 静かにおもう

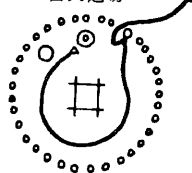
(3) 営火長のことば

○まとめてふさわしい印象的な話をする。

(4) 営火退場

○「今日の日はさようなら」を歌いながら火の使いは、参加者の顔を照らしつつ場内を一周して、一人に分火した後、退場する。

営火退場



円内一巡後1人に分火

(5) 分火

○残った1本のトーチから全員に分火する。

今日の日はさようなら

- 1 いつまでも たえることなく  
友だちでいよう  
明日の目を夢みて 希望の道を
- 2 信じ合う喜びを 大切にしよう  
今日の日は さようなら  
また会う日まで

(6) 閉会のことば

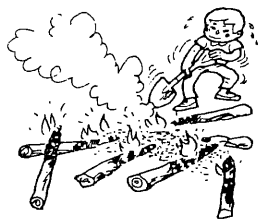
○司会者のあいさつと、終りのことば。

退場

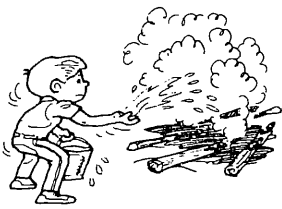
○全員トーチをかざしながら退場する。  
○所定の場所でトーチを消火する。

6 その他の留意事項

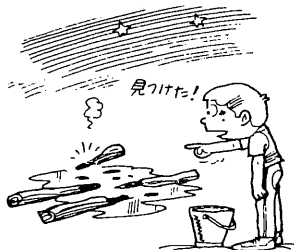
- (1) 営火係を中心に消火し、バケツ、トーチ、まき等の後始末をする。なお、就寝前にもう一度消火の確認をする。
- (2) 翌朝、燃え残った木や炭を取り除き、営火場の周囲を清掃する。
- (3) 暗い中での活動なので事前に各係及び参加者の役割を十分に確認しておく。



燃えさしのマキをくずして、地上に広げる。



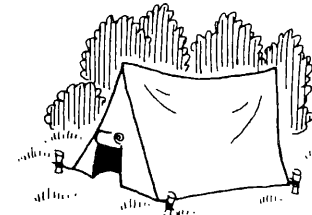
バケツを持ち、片手の平で水をすくい、マキにしぶきをかけるようにして消していく。



暗くしてマキをころがして見ると残り火がよくわかる。

(バケツから直接水をまいてしまうのは禁です)

# キャンプ・ファイヤー



津市青少年野外活動センター

暗闇の中に燃えあがって輝く一つの火を囲んでのキャンプ・ファイヤーは、友情の輪であり、キャンパーの心を魅了する神秘的な雰囲気は、深い印象と感銘を与え、生涯忘れることのできない思い出をつくるものです。

## 1 ねらい

- (1) 自然のふところの中で赤々と燃える営火を囲み、清純な心を養うとともに、新たな希望をいだかせる。
- (2) ゲームやスタンツを通して語りあい、創造性や協力を養い、友情と親睦を深める。
- (3) 家庭生活では得られない火の神秘さを体験させ、火に感謝する心や、火を大切に扱う態度を養う。

2 所要時間 約90分

3 服装 ○長そでシャツ ○長ズボン ○軍手

## 4 事前の準備

### (1) 役割と担当者の決定

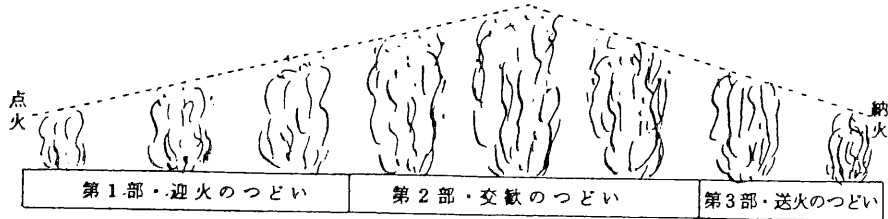
- ア 営火長(ファイヤー・チーフ) 1名  
ファイヤー全体の責任者。北極星を背に位置し、始めや終りに感銘深い言葉を述べる。
- イ 司会者(エール・マスター) 1名  
プログラムの進行係。歌やゲームを実施しながら全体の気分を察知し、楽しい雰囲気をつくる。司会者の演出や指導力がキャンプ・ファイヤーの成功のかぎをにぎっている。
- ウ 火の使い(トーチ・キャリアー) 1名  
トーチを運ぶ係。司会者との打ち合わせによる方法でトーチに点火して入場する。

エ 誓詞係 4名

献詞または誓いのことばを述べるとともに、営火長の指示により火床に点火する。

オ 営火係 (ファイヤー・キーパー) 2名

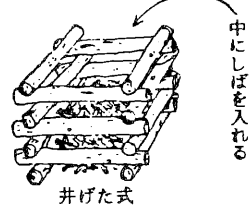
火を燃やす係。まき組から後始末まで受けもち、プログラムの進行にあわせて、下図のように火の勢いを調節する。



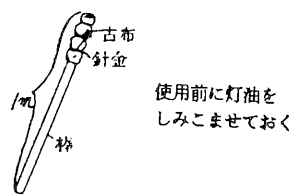
(2) 用具等の準備

- ア 火床 営火係がまき組みをする。
- イ トーチ 棒、布、針金、灯油等を準備し、事前に作っておく。
- ウ その他 補充用まき、消火用バケツ、スコップ、燃え残った木や炭を入れる缶。

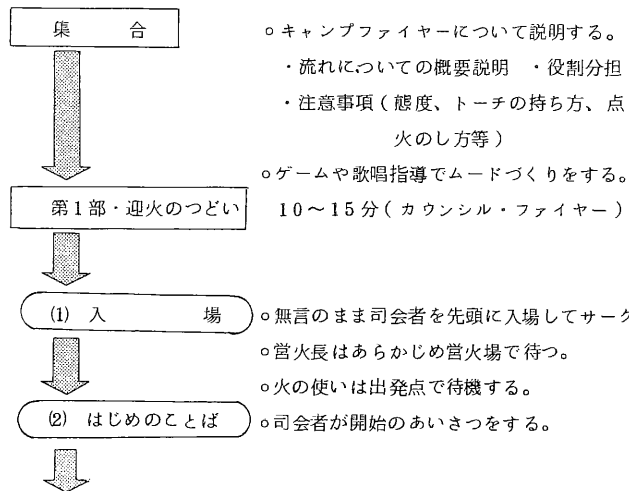
火床のつくり方



トーチのつくり方



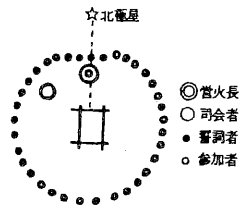
5 活動の流れと指導上の留意事項(例)



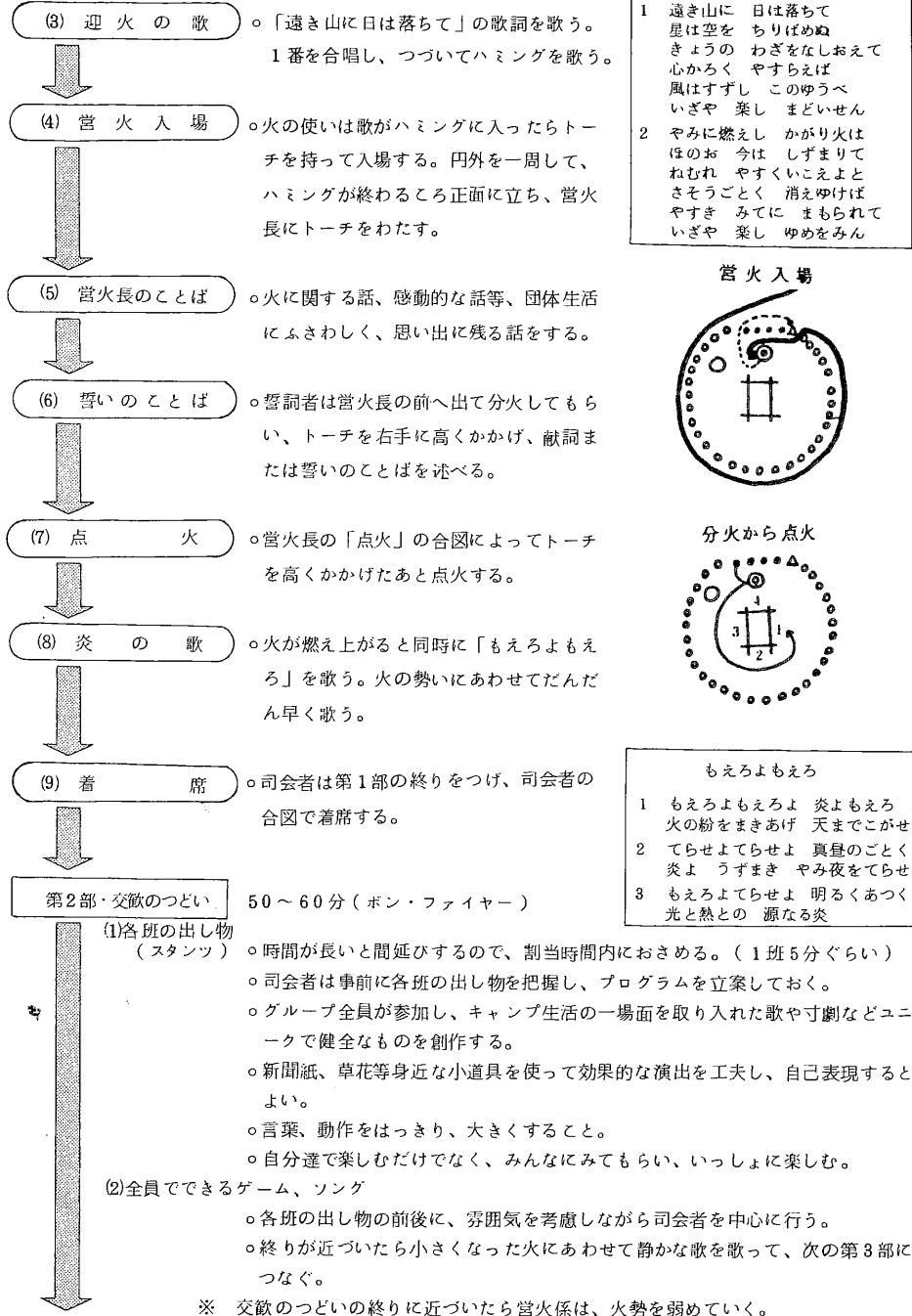
- キャンプファイヤーについて説明する。
  - ・流れについての概要説明
  - ・役割分担
  - ・注意事項(態度、トーチの持ち方、点火のし方等)
- ゲームや歌唱指導でムードづくりをする。

10~15分(カウンスル・ファイヤー)

営火場の形態



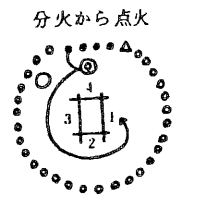
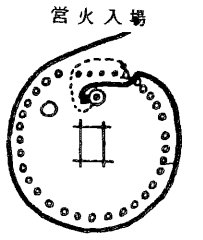
- 営火長
- 司会者
- 誓詞者
- 参加者



遠き山に日は落ちて

1 遠き山に 日は落ちて  
星は空を ちりばめぬ  
きょうの わぎをなしおえて  
心からく やすらえば  
風はずし このゆうべ  
いざや 楽し まどいせん

2 やみに燃えし かがり火は  
ほのお 今は しずまりて  
ねむれ やすくこえよと  
さそうごとく 消えゆけば  
やすき みにに まもられて  
いざや 楽し ゆめをみん



もえろよもえろ

1 もえろよもえろよ 炎よもえろ  
火の粉をまきあげ 天までこがせ

2 てらせよてらせよ 真昼のごとく  
炎よ うずまき やみ夜をてらせ

3 もえろよてらせよ 明るくあつく  
光と熱との 源なる炎

※ 交歓のつどいの終りに近づいたら営火係は、火勢を弱めていく。